

築地・銀座周辺まち歩き（前編）

4回にわたり、建築家写真倶楽部の皆さんにご協力をいただきながら「写真」「建築写真」について連載しています。第3回、第4回では、まち歩きで撮影した写真を紹介します。

建築家には写真やカメラが好きな方が多くいらっしゃいます。その楽しみ方は人それぞれで、建築写真のような技術を必要とするものを学んだり、街の風景など日常を取めることで自分だけのアングルや、その時の自分の興味を認識できるのも写真の面白さでしょう。さらに、一緒に街を歩いても切り取る風景がひとりひとり違いますから、撮った写真を仲間と見せ合い、新たな発見をするのも楽しみ方のひとつです。

7月5日、梅雨の曇り空のなか、建築家写真倶楽部のメンバーでカメラ片手に東京・築地と銀座周辺を歩きました。歌舞伎座前に集合し、はじめに向かったのは伊東忠太設計の「築地本願寺」。大規模改修を終え、本堂前面広場などがきれいに整備されていました。「築地市場」は市場機能が豊洲に移転し、変わってしまった風景もありますが、まだまだ観光客の姿も見られました。

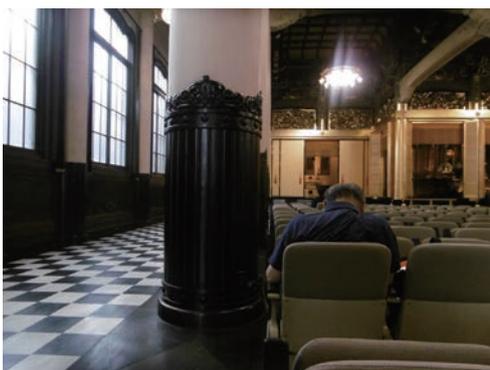
写真とともに撮影者のコメントを掲載します。

まち歩き参加者：兼松紘一郎、秋山信行、大澤秀雄、藤本幸充、野中 茂



■築地本願寺

実は初めて入りました。外と中の印象が全然違うのに驚きました。パイプオルガンをいつ使うのか気になってしまいました。(野中)



■築地本願寺本堂内部

煌びやかな内陣を遠望する席である。建物の荘厳な美しさもそっこのけ、これも伊東忠太の設計だろうか。この座席、座面が低く実に座り心地がよい。前の人に倣い、歩き疲れた我が身にひと時の安らぎを与える。(藤本)



■築地本願寺本堂入口

京都市にある「浄土真宗本願寺派西本願寺」の直轄寺院として東京築地に建てられたが、大火や震災によって焼失。1934年建築史家でもある伊東忠太によって再建されたとのこと。時を超えて魅力的な建築である。

(兼松)



■本願寺横の自販機

坂なのに本願寺の立面図がピッタリ合っているのが凄い！（大澤）



■本願寺東側路地

本願寺の裏手に広がっていた築地市場も豊洲に移り、残滓のような風景を探した。ここもそのひとつ。銀座という高級な商店が軒を連ね、築地の料亭も華やかさを増すエリアにあって生活する人びとの多様性を見る思いがする。（藤本）



■波除稲荷神社

豊洲に移る前、まさに築地の中心に在る神社。祭りも行われ、依然伝統を守る格式の高い場。市場の中であってここだけ異色だが、樹木と暖簾？が結界の役目をしている。通常は市場側から木々に囲まれた神社を見るのだろうけれど、あえて姿は出さず神社の内から外を望む。（藤本）



■築地の町の商店街

東京銀座に近い築地の町は、大江戸線の開通で我が事務所の在った新宿からも行きやすいところになった。さてこの地を守る！波除稲荷神社に近い一角に、昔ながら！と言いたくなる風情の「築地銘店会」が発足された。掲載する写真は築地銘店会メンバーのお店（敬意を表して「お」を付記しなくなった）。（兼松）



■築地市場

解体中の築地市場の海幸橋門周り。看板の「見学時間が来るまでは、何か買ったり食べたりしながら待ってろ」というのが面白い。（大澤）



■新喜楽

ビルの立ち並ぶエリアにあって、ここだけ木造2階家である。まさに料亭の外観。さすが吉田五十八、簾までしっかりデザインしている。建物全体を覆うほどの大きさが、一番下は格子で透かす。向かいのビルが見えそうところは細かな簾、庭の木々が見えるところには荒めの横格子。夏のさなか、座敷から見た涼やかな風景を彷彿とさせる。（藤本）



■電通本社ビル

近くの東新橋方面のビルである。築地を歩くと通りの先にたびたび目にする。現れ方が蜃気楼のようになって、曇天の時はなおさらである。ゆえに確実なランドマークになっている。目立つ高層ビルにもかかわらず、おぼろげな表現は日本的だが、確か設計はジャン・ヌーベル。（藤本）



建築家写真倶楽部の参加メンバー。左から、兼松、野中、秋山、大澤、藤本。